

登山道(登山口～主要山頂、稜線まで)の現況 2019

◎一般ルート(ほぼ一般ルートに近い状態も含む) ○一般ルートであるが、岩場など危険箇所がある

□登山として利用される場合もあるが、不明瞭地点があり、道迷い・ルート間違いを起こす可能性がある

△作業道又は杣道 ■難ルート(廃道、不明瞭地点が多い) ▲沢登り(遡行)ルート

山域	登山道	現況
野登山 (ののぼりや ま)	◎表参道	坂本棚田駐車場から坂本集落の中を進み、集落を過ぎると車道(東海自然歩道)と別れる。獣害対策ゲートを自分で開けて通過、車道はすぐに登山道になり、植林の中の広い尾根をジグザグに登っていく。車道を横切り、再び登山道に入り、しばらく進むと広場(夢想庵跡)にでる。少し車道を歩き、再び登山道に入る。やがて広場、駐車場、トイレ(古い)があり、しばらく進むと、分岐になり、左に行けば野登寺(やとうじ)への参詣道がある。右に進むと、ブナの大木や杉の巨木の林の中になる。途中の小さな池の周囲は雰囲気が良い。三角点は見過ごしやすい小さな広場になっているが展望はない。展望を見る場合は、一の谷道を2、3分歩いた国見広場が良い。北の入道ヶ岳や鎌ヶ岳が一望である。2020.1. 8
	△南東尾根 (市境尾根)	野登山林道入口に駐車。2.5 万分の 1 地形図(伊船)で亀山市と鈴鹿市市境に沿う徒歩道(登山道)の点線に沿って歩く。頂上まで道形(凹状)が続いていたので、かつては野登寺への参詣路としての役割をしていたのではないと思われる。土砂や落ち葉、枯れ木等で埋まっている地点はあるが、やぶ漕ぎはなく、尾根沿いに充分歩ける。古い黄色のテープ類の表示はある。標高 750m くらいから天然林(2 次林)が多くなり良い雰囲気である。2020.1. 6
	◎ミツマタ尾根(仮称)	坂本棚田駐車場から、集落内の分岐を左にとり、獣害防止ゲートを通過して、しばらくは林道を進む。途中、荒れた茶畑から矢原川に下る地点あり。山道になり、小さな沢を 2 か所越えると古い作業小屋があるが、このあたりからミツマタ群生地になる。群生地は谷の中で、西側の尾根に取り付き、ミツマタ尾根を北方向に登り始める。この尾根を下る場合は、ミツマタ群生地に鋭角的に左に曲がるので注意したい。急であるが、歩きやすい植林の中の尾根道をあえぎ、登る。最後のジグザグを、右方向に斜面を進むと、仙鷄尾根の鞍部に出る。2019.12. 12
	○野登山国見広場～鳩ヶ峰	国見広場からコル(マド)までは小岐須一の谷コースの一部。やや急な箇所あるが問題なし。コルに鳩ヶ峰・庄内への標識(難路)あり。ままり踏まれてはいないが忠実に尾根を外さなければ鳩ヶ峰(710m ピーク)に到達できる。
	△鳩ヶ峰～西庄内(上野かみの)	テープは北東尾根(土石採掘場)につけられているので要注意。 2.5 万分の 1 地形図には徒歩道として記載されているが、実際にはない。(古いビニールテープ 1 つ発見、杭は数本確認したが何を示すものか不明) 頂上から南東方向に急斜面を適当に下る。岩崖などはない。2 か所目の急な斜面から東南東に延びる尾根を探すのが難しかった。このあたりで古い登山道らし

		き踏跡が現れてくるが作業道か、けものみち、の判別は困難。東南東に延びる尾根に乗ってからは、明瞭な作業道(古い登山道)になる。チェーンソーの音がして森林組合の方が私たちを見つけて驚く(登山者は皆無とのこと)。堰堤が見えて、車道に出る。山の神駐車場まで、森林組合の方の車で送ってもらう。2019.12
	○仙鷄尾根	野登山の車道(仙鷄尾根分岐)からいったん下った鞍部にミツマタ尾根が合流する。植林帯を登り返して 778m のピークとなり、痩せた岩尾根、ガレ場、崩壊地が連続する。固定ロープもあるが、足元がしっかりしている者、登山靴を着用している者でないと辛く危険でもある。崩壊地は特に危険で、木の根、立木も利用しなければならないので、掴むときには安全を確認して利用する。2019.12. 12
仙ヶ岳	○南尾根	石谷川林道に新しい落石が 3 か所あり。歩行には支障はない。林道終点が小広場で、5 分先に旧営林署小屋跡があり、白谷、南尾根の分岐になっている。炭焼き跡を過ぎてイタハシ谷の右岸側(主に)を進む。狭まった谷の右岸側には固定ロープや古い橋があるが、腐った橋も落ちてしまっており、迂回路を設定した。不動尊コル手前の谷上部も急な斜面になっており、落石や浮石に注意する。不動尊コルからすぐの岩場は右側から巻けるが不明瞭である。数か所の岩峰のアップダウンを繰り返す。岩峰3につけておいた目印の赤テープがなくなっている。岩峰からの展望よく、琵琶湖、知多半島などはっきり見える。2019.9. 25
	○白谷 (下りを記述)	(ハシゴ・くさりがあり、大人数、大ザックのパーティには不相当) 源頭部の分岐(三角点と仙の石)に道標設置。白谷上流部は谷芯を下るが、木の枝の赤テープが目印、道は不明瞭である。渡渉を繰り返す。渡渉点には表示(赤テープ)が必要である。(白谷の西の尾根)に上がる道との分岐には道標必要。谷の左岸側にトラロープ(20m)必要箇所あり。ハシゴの注意表示必要。2019.25
	■御所谷	白谷の「御所谷分岐」から入る。入口に表示があり、地形図にも点線がついている。入口から滝が連続するが総じて暗い谷であり、10m の滝は右岸側を巻くが足場は悪いので要注意である。途中で河原状になるが、その上流部で道は消える(土砂や倒木などで埋没して、荒廃)。谷芯を忠実に詰めれば御所峠にでれる。
※御所平	□ 御所平 ヨコネ～ミズ ナシ	県境稜線がゆるやかな斜面になり約 1500m 続いている。樹林帯、笹原、ススキ原で、展望が素晴らしい。北東端の P(ピーク)がヨコネ、南東端の手前の P がミズナシ。ヨコネ周辺はアセビの大木が点在して、鹿よけの金網があるが、大半は倒れている。ゆるやかなアップダウンを繰り返して南下する。道は不明瞭な部分もあり、視界不良の時などは常に、磁石で進行方向を確認したい。
	■ガンサ谷 葦谷ふきたに	葦谷の最上流域をガンサといい、ガンサ谷とも呼ばれる。石谷川林道の終点の広場の横から入る。入口には「七つ釜」の表示があるが、地形図が読めないとわかりにくい。しばらく道は明瞭ではあるが、木の橋の大部分は朽ちて、道をシダが覆っている。渡渉箇所もある。付近はシキミの伐採地であったので、入山者があったと思われる。ガンサ谷の中流部は河原状になり堰堤もみられる。上流部で

		<p>右岸側のガレ場、小尾根状の急登となる。ガレ場では踏み跡が消えているので注意を要する。地形図の県境の崖が見えてくるので不安定な急登をよじ登り、稜線にでる。小太郎峠である。インターネット等の書き込みで、ここを「家老平」としているものがあるが、不確かである。</p> <p>本コースは、石谷川林道に駐車して、ガンサ谷…御所平…仙ヶ岳…(御所谷、南尾根又は白谷)の周回コースとして利用される場合あり。</p> <p>鈴鹿の山ハイキング(中日新聞社)「鈴鹿の山を歩く(ナカニシヤ)」でも紹介されているので、低山歩きを趣味としているハイカー(登山愛好者)が入山する。</p>
※鬼ヶ牙 (おにがきば)	◎鬼ヶ牙・三つ淵ルート (実際は■)	<p>三つ淵が入口(亀山市・鈴鹿国定公園協会の道標)のルート。谷ルートで、固定ロープがあるが、険悪で滑りやすく、危険である。</p>
	□鬼ヶ牙・舟石林道入口	<p>船石林道分岐を林道方向に少し進むと入口あり。尾根沿いの急な登りである。ザラザラとした風化した岩が多い。北峰(本峰)・南峰への分岐には道標有り。さらに道標(注意表示)が必要。</p>
	▲カクレ谷	<p>沢登りコース 遊行説明必要</p>
	▲東の谷	<p>船石林道の途中から渡渉して、東の谷に入る。踏み跡はあるが木の枝と蜘蛛の巣が顔によく当たる。歩く人は少ない。最終の二股で、右の谷に入ってしまう。結局、さらに左上に延びる尾根を登り、長坂尾根に合流する。2019, 12, 5</p>
臼杵ヶ岳 (うすきねがだけ)	○ウス・キネ岩縦走コース	<p>登山口周辺はシダでやや不明瞭。小さな谷に沿う。途中から急な尾根道になる。展望はきかない。2 か所仙ヶ岳方面の眺望がある平坦地あり。ウス岩・キネ岩から以降は、展望が良い。臼杵山(630p)から鞍部(臼杵峠)まで下り、上り返すと船石林道との分岐。南に、樹林の道を進むと臼杵ヶ岳の頂上となる。三重県側の展望良い。仙ヶ岳から野登山、伊勢湾、経ヶ峰と錫杖ヶ岳、明星ヶ岳が一望である。余裕があれば東に2, 3 分の展望岩まで行ってみたい。2019.12. 7</p>
	△花の木谷南尾根	<p>サクジ谷の右から尾根にのる。赤テープ有り。525p は明瞭なピークだが展望はない。540~545mは露岩で右側を巻く。560m で右に大きく巻く(展望岩をまく。)赤テープに導かれて斜面を上がり、650m 付近の尾根上にあがる。5 分で頂上に達する。(後に、展望岩周辺を探索したが、直登ルート発見できず、巻き道で、本尾根を下山した。1 か所二股で左尾根に入るが、引き返して、本尾根に戻れた。)</p>
	▲花の木谷	<p>沢登りコース 遊行説明必要</p>
	◎県境尾根 安楽越・頂上	<p>安楽越からかもしか高原までは東海自然歩道の区間で、急な部分は階段が設置されている。</p>
四方草山 (しおそやま)	□老人ホーム尾根	<p>老人ホーム「華旺寿」の上(車道の最終)又は下(坂の下)に駐車。すぐに尾根の末端があるので、尾根に沿った踏み跡を登る。古い赤テープあり。途中で踏み跡が二重になることもある。標高 670m 付近で郡境尾根が合流。標高 600m 付近で県境縦走路の分岐が間違えやすい。表示板あり。四方草山南峰には、右に縦走</p>

		路(急登)を進む。南峰は仙ヶ岳、明星ヶ岳、坂下、高畑山の展望良好。
※霧が岳	□北山南峰尾根	林道鈴鹿南線を坂下から入り、群境尾根、筒露谷の次の尾根が入口。尾根に沿って北上すれば北山南峰を經由して北山、霧が岳に楽に到達できる。ほとんど植林帯の中。地図読みと磁石必携。
三子山	■若妻谷	比較的歩きやすい(「鈴鹿の山と谷 6」)と記載されているので入ってみた。地域の方が子供のころマツタケを採りに行ったという道は廃道化しており、滝を巻く部分も大体は崩れている。間伐材が両側から落下して谷を埋めている。全体的に暗い谷である。下りは使用不可能と思われる。2019.9. 26
	△中峰南尾根(下り)	標高 480m 付近から下にテープあり。480m~420m 付近は急傾斜で歩きにくい。標高 400m 付近は平らで幅広い伐採跡。赤テープあり。標高 400m~300m は再び急傾斜地、植林の中の仕事道が縦横にはしる。伐採林で歩きにくい。最後は堰堤の池を見て急降下する。2019.9. 26
高畑山	◎鈴鹿峠より県境で頂上へ	土山町の駐車場から登る。630mまでの急な部分をすぎると緩やかなアップダウンになる。キレット(ナイフリッジ)は難なく通過。すれ違い時は、一方が待つべき。2 回目の長い登りで 568P に着く。展望が良くなる。高畑山は 3 つのピークからなる。最後の登りで頂上に到着。約 90 分である。頂上一帯は樹木がなく、360 度の大展望。斜面も利用すれば 100 人程度休憩可能。2019.5~9
	△林道下降尾根 A コース	高畑山頂上の 1 つ手前のピークから南に尾根を降りるルート。尾根を外さないように磁石と地形(尾根の芯)をみて下る。古い赤テープ、うすい踏み跡はある。B に比べて、やや急な箇所が 2 つあるが植林の土の斜面。地形図等高線で判読可。2 つ目(林道に降りる箇所)を慎重に林道(神大滝林道)に出る。2019.8
	△林道下降尾根 B コース	高畑山から溝干山への稜線に、直角に曲がる地点の手前 250m のピークから南東に延びる尾根を下る。登る場合も利用しやすい。県境稜線から尾根に入る地点には踏み跡がないので、地形図、尾根をみて入る。すぐ踏み跡が現れ、その後明瞭な道になる。1 か所急な部分があり固定ロープがつけられている。2019.9
※溝干山(みぞぼせやま)	△林道下降尾根 C	溝干山の頂上に、東方向に赤リボンがつけられているので、気になっていた。下の林道最後の広場(ホンダ組合の看板あり)付近から溝干山方向に登山道がつくられているようなので登ってみた。途中までは作業道がつけられており、それは途中から西の溝干山・坂下峠間の途中に続いていた。赤リボンは尾根筋にあり、アセビの森の中の尾根を登り、溝干山頂上にすることができた。

錫杖ヶ岳	◎ 加太(向井)ルート	駐車場は 10~15 台可能。登山口表示あり。登山口から頂上まで、整備されている。約 2 キロで、200m 毎に表示がある。柚之木峠から急登になり、頂上直下の岩場には固定ロープ、栈橋が設置されている。頂上は狭いが、360 度の大展望が楽しめる。また頂上から南側に 10m 下ったところに東屋があり休憩ができる。
	□越川ル	地形図にある登山道はないが、ルートはある。(未記載)

	ート	
	■ 福徳ルート（下り）	小雀の頭の北方に 2 つある小ピークからの眺望良い。歩きやすい稜線の道、ゆるやかなアップダウンはある。509pから進行方向は北東方向になる（わかりやすい）。途中から広い斜面を適当に降りる。右下の谷に降りると林道（地道、草が茂る）となり、真谷林道との分岐に表示プレートがある。（2019.12. 11）
	○ 小雀の頭（縦走）	（未記載）
	■ 石山観音尾根	車道を少し歩き、尾根に上がると赤リボンが、約 10m 間隔である。明瞭な尾根にうすい踏み跡あり。マツと照葉樹（サカキ等）が多い。鋸尾根の末端（400mp）は平たい石もあり、山の名前をつけても良いかも。鋸尾根分岐を見落としたため、2 つ先のピーク、南西方向と南東方向（長徳寺尾根）に分岐、まで行く。末端まで戻る。最初の急な下りは木の幹（根）につかまらないと下れない。4 つ先のピークで、第 2 石山観音尾根に入るつもりが、5 つ先のピーク（手前も、悪場）で、右側の尾根に入ってしまう。中電の鉄塔があるためか赤リボンがあり。鉄塔からは保全路を利用する。第 2 石山観音尾根の途中に復帰して尾根を下る。赤リボンあり。石山観音まで歩けそうだったが、途中で右の林道に降りる。（2019.12. 9）

※明星ヶ岳	◎ 国分寺コース	白木一色の集落から農道を進むと広い国分寺駐車場に着く。車を置いて、簡易舗装路を歩いて国分寺に向かう。なお上白木の側からも、4、5 台駐車可能地があり、国分寺に行くことができる（どちらも大差ない）。 国分寺から鐘樓の左側から登山路を確認して登りだす。植林の中のはっきりした尾根道である。やがて平坦な尾根道になり、東峰（三角点 549m）の到着する。展望はほとんどない。このルートを下る場合、東峰を含めて、東に延びる尾根に入らないよう注意する。約 10 分で西峰に到着できる。こちらは 360 度の大展望を楽しむことができる。特に、真正面には四方草山がどっしり構えている。
	■ 南東沢コース	（未記載）
	■ 西尾根コース	（未記載）
※ 花の木 339m	□ 花の木	（未記載）

展望台～羽黒山～筆捨山	◎（一部東海自然歩道）	（未記載）
-------------	-------------	-------